

株主通信

第155期[2017年4月1日～2018年3月31日]



『世界のパートナーと社会課題の解決に
取り組む企業』を目指して

Contents

株主の皆様へ	01
連結決算の概要	03
業績ハイライト	04
第155期の主なトピックス	05
特集 アルツハイマー病変を血液から 早期に検出する手法を確立	07
CSRの取り組み	09
CSRトピックス	11
役員紹介	12
会社概要・株式情報	13
証券会社に口座をお持ちでない株主様へ	14



株主の皆様へ

株主の皆様には平素格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに、第155期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)株主通信をお届けいたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

代表取締役 社長

上田 輝久



■ 社是

科学技術で社会に貢献する

■ 経営理念

「人と地球の健康」への願いを実現する

中期経営計画 2017年4月～2020年3月

目指す姿
世界のパートナーと社会課題の解決に取り組む企業

◆ 2019年度 業績目標

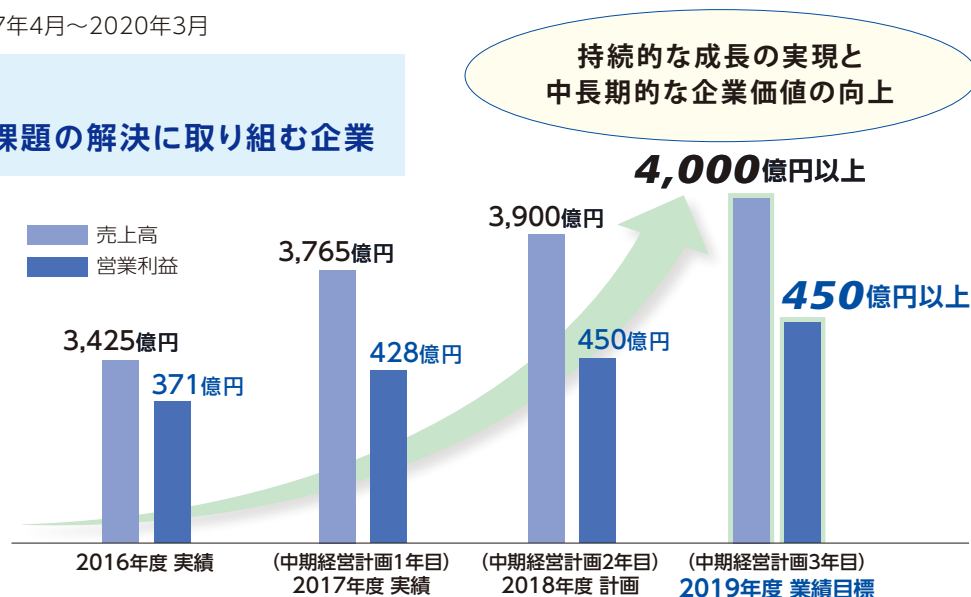
売上高 **4,000億円以上**

海外売上高比率 **50%以上**

営業利益 **450億円以上**

営業利益率 **11%以上**

ROE(自己資本純利益率) **10%以上**



Q 当連結会計年度の業績と配当について、教えてください。

A 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全ての項目で過去最高となり、5期連続の増収増益を達成することができました。

当連結会計年度の業績につきましては、国内外における緩やかな景気回復の傾向を背景に順調に推移しました。計測機器事業は、食品・環境規制への対応強化や設備投資拡大を背景に増加し、産業機器事業は半導体分野を中心に大幅に増加しました。また、医用機器も好調で、これらの3つの事業において過去最高の売上を達成しました。

当連結会計年度の売上高は3,765億3千万円(前年度比9.9%増)となり、営業利益は428億2千2百万円(同15.5%増)、経常利益は418億7千1百万円(同13.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は298億3千8百万円(同12.7%増)となりました。期末配当金は、前期に比べ3円増配し、1株につき13円とさせていただきます。なお、中間配当金を含めました当期の配当金は、前期に比べ4円増の1株につき年24円となります。

Q 中期経営計画の進捗について、教えてください。

A 初年度の2017年度は、諸施策を着実に実行し、上述の通り、目標達成に向けて、順調にスタートしました。

『成長分野投資』としては、7・8頁で紹介している「分析-医用融合」に向けたアドバンスト・ヘルスケアの取り組みや、各地の顧客や社会ニーズに対応すべく「イノベーションセンター」の拡充を進めています。この他にも、臨床分野における検査・開発ニーズに応えるため、液体クロマトグラフ質量分析装置を用いた分析において、目的に応じた試薬キットの提供を進めるべく、2017年7月にAlsachim SAS社を新たに当社グループに加えしました。

さらに、成長戦略を支えるための『組織基盤変革』の1つとして、健康経営に取り組んでおり、2017年10月に「健康宣言」を発表しました。健康情報提供サイトの運用を開始し、従業員の健康への関心を高めるとともに、自社で開発する装置や最先端の技術を組み合わせることで、当社ならではの健康経営に注力しています。また、働き方改革・環境経営の活動にも取り組み、持続的な企業価値の向上を進めています。

Q 今後の主な取り組みについて、教えてください。

A 『成長分野投資』では、新製品の開発力強化に向け、社内の製品開発・体制強化への投資を拡大するだけでなく、事業提携など戦略的な外部資源の活用を進めます。『収益力強化』では、業種・機種毎の採算性改善に努めるとともに、試薬・消耗品事業の強化、AI・IoTを活用した新たなサービスの提供や基盤強化を進め、アフターマーケット事業の拡大を図ります。

『組織基盤変革』では、健康経営・働き方改革・環境経営の取り組みを継続し、事業のグローバル化やガバナンス強化を支えるため、事業セグメントだけでなく、全社管理部門においても本社とグループ会社との連携を進めていきます。

連結決算の概要 (2018年3月31日現在)

連結貸借対照表 (億円)

	当期末 (2018年3月31日)	前期末 (2017年3月31日)
資産の部		
説明1 流動資産	2,939	2,631
固定資産	1,259	1,123
有形固定資産	841	788
無形固定資産	92	84
投資その他の資産	325	251
説明1 資産合計	4,198	3,754
負債の部		
流動負債	1,220	1,041
固定負債	297	296
負債合計	1,517	1,337
純資産の部		
株主資本	2,585	2,353
その他の包括利益累計額	92	60
非支配株主持分	4	3
純資産合計	2,681	2,416
負債純資産合計	4,198	3,754

説明1 総資産の増加

現金及び預金が202億円、受取手形及び売掛金が62億円それぞれ増加したことなどにより、総資産は444億円増加しました。

説明2 通期の過去最高を更新

売上高は前年同期に比べ10%増加し、通期で過去最高の3,765億円となり、営業利益428億円、経常利益419億円、親会社株主に帰属する当期純利益298億円と全て過去最高額を更新しました。

配当のご案内 期末配当金 1株当たり13円

配当金は、2018年6月28日(木)以降お受け取りいただけます。

配当金のお支払いに関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレホンセンター
 ☎️ 0120-232-711 (東京) ☎️ 0120-094-777 (大阪)
 (通話料無料) 受付時間 9時~17時(土・日・祝日等を除く)

詳しくは当社ホームページより

「2017年度 第4四半期(4-3月通期) 短信」をご覧ください。

▶▶▶ <https://www.shimadzu.co.jp/ir/finance.html>

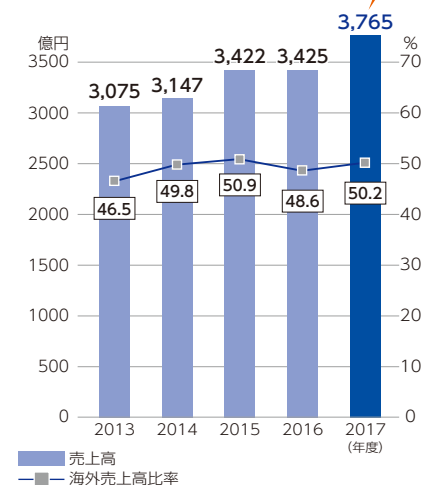


連結損益計算書 (億円)

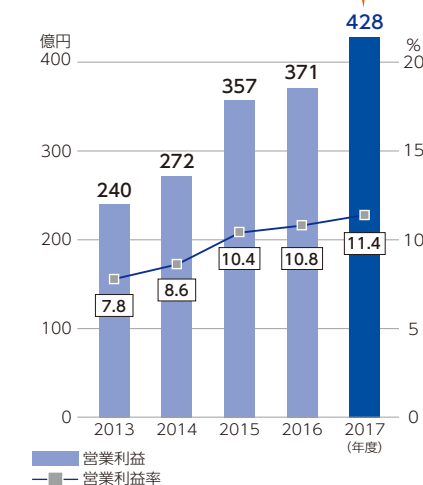
	当期末 (2018年3月31日)	前期末 (2017年3月31日)
説明2 売上高	3,765	3,425
売上原価	2,267	2,061
売上総利益	1,498	1,364
販売費及び一般管理費	1,070	993
説明2 営業利益	428	371
営業外収益	19	18
営業外費用	29	19
説明2 経常利益	419	370
特別利益	2	0
特別損失	3	10
税金等調整前当期純利益	418	361
法人税、住民税及び事業税	115	88
法人税等調整額	3	8
当期純利益	299	265
非支配株主に帰属する当期純利益	1	1
説明2 親会社株主に帰属する当期純利益	298	265

業績ハイライト (2018年3月31日現在)

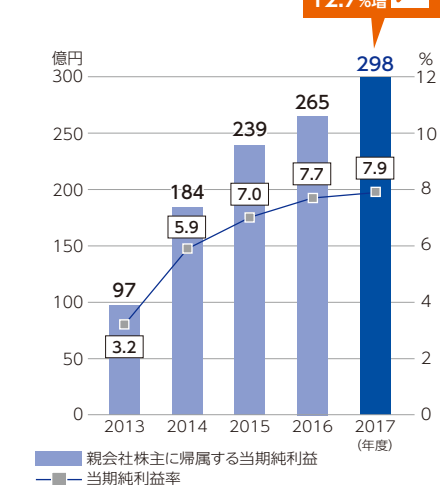
売上高 **3,765**億円
 前年度比 **9.9%**増
 海外売上高比率 **50.2%**



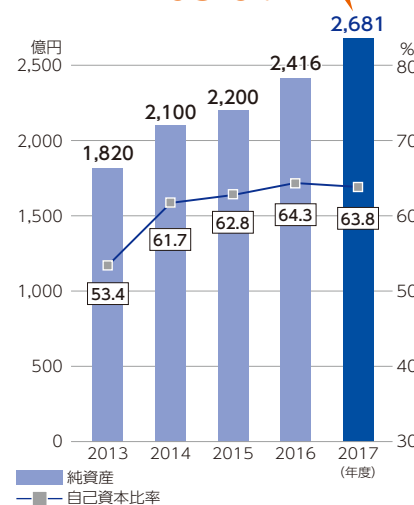
営業利益 **428**億円
 前年度比 **15.5%**増
 営業利益率 **11.4%**



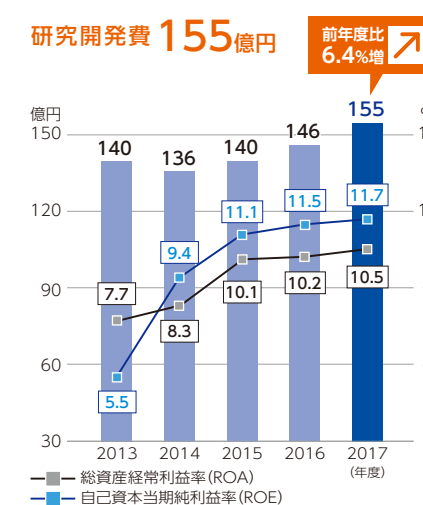
親会社株主に帰属する当期純利益 **298**億円
 前年度比 **12.7%**増
 当期純利益率 **7.9%**



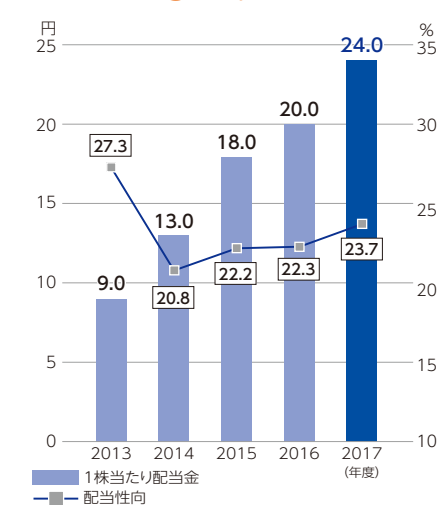
純資産 **2,681**億円
 前期末比 **10.9%**増
 自己資本比率 **63.8%**



総資産経常利益率(ROA) **10.5%**
 自己資本当期純利益率(ROE) **11.7%**
 研究開発費 **155**億円
 前年度比 **6.4%**増

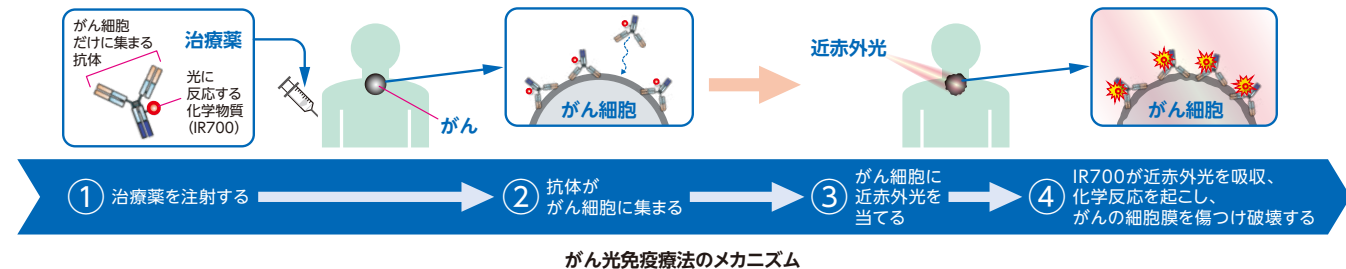


1株当たり配当金 **24.0**円
 配当性向 **23.7%**



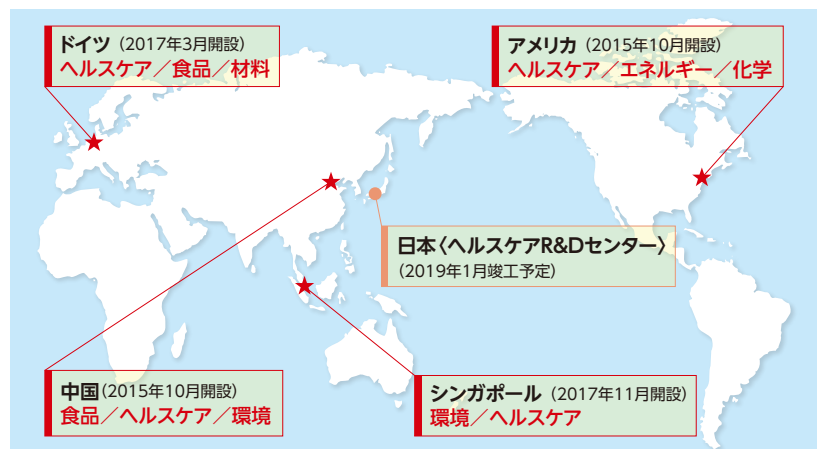
「がん光免疫療法」の実用化に向け米国国立がん研究所 (NCI) と共同研究 2017年9月

新たながん治療法として、「がん光免疫療法」が注目されています。これは、米国国立がん研究所 (NCI) の小林久隆主任研究員が中心となって開発している治療法です。がん細胞のみに結合する抗体と近赤外光を吸収して反応する化学物質 (IR700) を結合させた治療薬を患者に注射し、治療薬が集積したがん細胞に近赤外光を当てて、正常細胞を傷つけないで、短時間でがん細胞のみを破壊する手法です。当社は、「がん光免疫療法」の実用化を支援するための計測技術の研究開発をNCIと共同で実施します。また、近赤外光カメラシステムでがんの位置の特定や治療効果を計測し、質量分析装置により尿に排出される成分を測定することで、安全性や治療効果を高め、この手法の早期実現を目指します。



シンガポールにイノベーションセンターを開設、シンガポール国立大学と共同研究 2017年11月

潜在ニーズを汲み取り、国内外の研究機関・研究者との共同研究を通じて新製品や新システムの開発を進めています。各地の顧客や社会ニーズに対応するため、北米・中国・欧州の主要市場に共同開発拠点「島津イノベーションセンター」を開設しています。昨年11月、4拠点目をシンガポールに開設しました。現在、水質汚染の原因となるリンや窒素をモニタリングする環境センサをシンガポール国立大学環境研究所と共同で開発しており、2020年の製品化を目指しています。今後、本社と世界各地のイノベーションセンターとの連携により、オンリーワン・ナンバーワン製品や応用システムの開発を推進します。



イノベーションセンターの所在地と主な研究開発テーマ

(株) iPSポータルと共同開発した細胞培養支援装置「CELL PICKER」を発売 2018年3月

再生医療・細胞培養の分野では、目的とする細胞を、安全で安価に培養する方法が求められていますが、再現よく細胞を培養することは難しく、作業には高いスキルが要求されます。(株) iPSポータルと共同開発した細胞培養支援装置「CELL PICKER」は、iPS細胞の培養時に発生する不要な細胞を正確・簡便に除去することができ、作業の効率を高めると共に、培養の再現性・安定性の向上に寄与します。当社は、再生医療での応用が期待されるiPS細胞などの観察やその培養環境を計測する装置を提供する「細胞関連事業」を展開しています。今後も研究機関・民間企業との連携を通じて、市場から必要とされる製品を拡充していきます。



CELL PICKER (顕微鏡接続時)

患者と医療従事者双方の負担を軽減する血管撮影システム「Trinias」シリーズ [unity edition] を発売 2017年10月

血管撮影システムは、心筋梗塞や狭心症など血管系疾患におけるカテーテルを用いた検査や治療に使用されます。近年、患者負担の少ない血管内治療に対する期待が高まっており、低被ばくかつ高画質で多様な部位に対応できる装置が求められています。このような要望に応えるため、血管撮影システム「Trinias」シリーズの新モデルを発売しました。本製品は、患者被ばくの低減や、治療の安全性向上、治療時間の短縮を目的とし即時表示に優れた画像処理技術を導入しています。患者と医療従事者双方の負担を軽減し、全身の血管内治療をトータルに支援します。



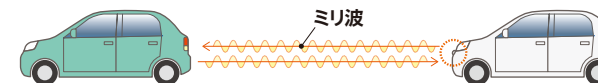
Trinias C16 unity edition

低コスト・高効率を実現するミリ波 (電磁波) 透過膜の成膜技術を開発 2017年7月

自動車の安全性を高める衝突防止技術において、前方の車や人との距離を測るために使われるミリ波レーダーが注目されています。通常、ミリ波レーダーは車体正面のエンブレムの内側に内蔵されており、エンブレムの金属コーティングにはミリ波を透過させる希少金属膜が使われています。ミリ波レーダーの普及に当たり、この金属のコストや生産の効率性が課題となっています。そこで、当社と(株) JCU、(株) きもとの3社は関東学院大学と共同で当社的高速スパッタリング装置を用い、希少金属を使わない成膜技術を開発しました。新技術は、低コストかつ効率的な成膜を可能にします。当社は、自動車の安全性や自動運転技術の向上に貢献すべく、この成膜技術の普及に努めていきます。



高速スパッタリング装置



ミリ波

特集 アルツハイマー病変を血液から 早期に検出する手法を確立 —治療薬、予防薬開発の加速への貢献に期待—

当社は昨年4月にスタートした中期経営計画において、分析計測技術と医用技術を融合し、予防・診断・治療・予後管理の幅広い分野で革新的な製品・サービスを創出する「アドバンスト・ヘルスケア」に取り組んでいます。そのテーマの1つとして、認知症関連の研究を行っています。厚生労働省は、2025年には65歳以上の認知症患者数は700万人を超えるという見通しを発表しており、その対策は社会全体にとって重大な課題となっています。認知症患者の6割以上をアルツハイマー型認知症が占めていますが、現状では根本的な予防薬や治療薬が存在しておらず、早期発見が重要となります。



シニアフェローの田中耕一らが共同研究

当社と国立長寿医療研究センターは、脳脊髄液や陽電子放射断層撮影装置 (PET) によるイメージング検査に匹敵する高精度のアルツハイマー病変 (アミロイド蓄積) 検出法を確立しました。当社の質量分析システムを用いて2014年に発見したアルツハイマー病変 (アミロイド蓄積) の血液バイオマーカー (※1) 候補について、世界有数のアルツハイマー病コホート研究の組織である豪州の Australian Imaging Biomarkers and Lifestyle Study of Ageing (AIBL) と連携し、京都大学、東京大学、東京都健康長寿医療センター、近畿大学と共同で、研究を進めてきました。研究の成果は2018年2月1日に学術誌『Nature』オンライン版で公開されました。当社からは、2002年にノーベル化学賞を受賞したシニアフェローの田中耕一らが共同研究に加わっており、同賞の受賞理由となった「MALDI (マトリックス支援レーザー脱離イオン化法)」の技術が、アルツハイマー病変 (アミロイド蓄積) 検出法につながっています。

(※1) バイオマーカー：病気と関連する体の中の成分のこと。
(血液中のたんぱく質など)

根本的治療への一歩

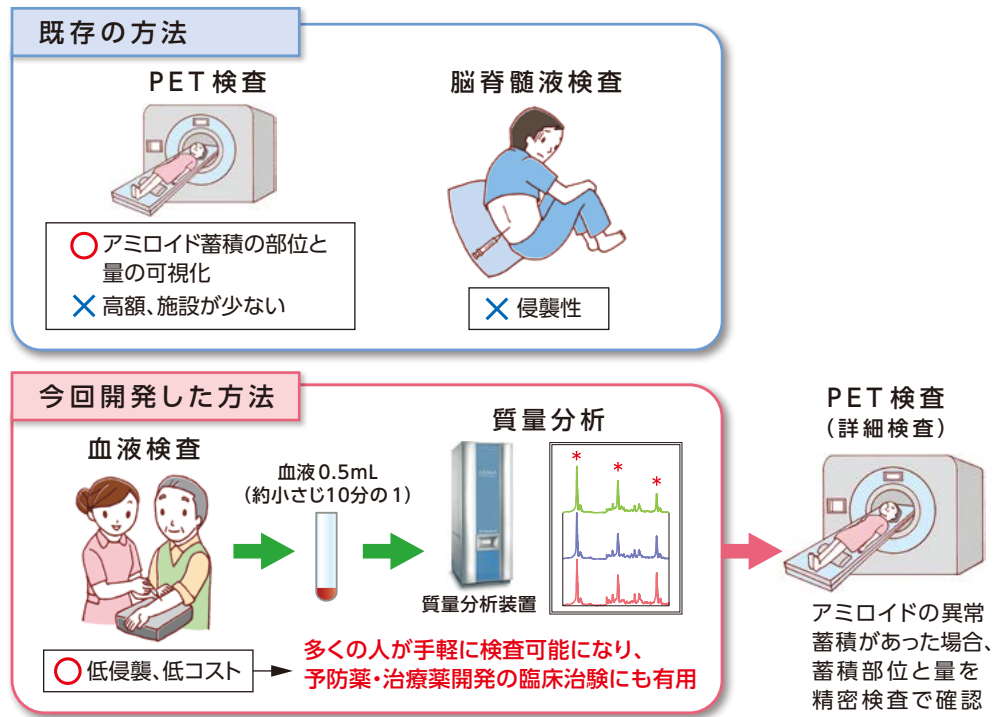
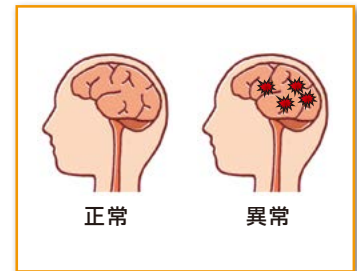
アミロイドの脳内蓄積は、発症20年以上前に始まり、脳内に蓄積した人はアルツハイマー病の発症リスクが高まると考えられています。従来の痛みを伴う脳脊髄液検査および検査費用が高額なPETによる検査は、数千人規模の参加が必要な臨床試験への適用には限界がありました。

この度確立したアルツハイマー病変 (アミロイド蓄積) 検出法は、わずか0.5mLの血液から正確に検出でき、アルツハイマー病の根本的な治療薬、予防薬の開発につながる可能性があります。当社は、アルツハイマー病の治療薬や予防薬を開発している製薬会社や研究機関に向けて、軽度認知障害 (MCI) 患者や健康高齢者を対象に、アミロイドが異常蓄積した人を同定するスクリーニング検査の受託分析事業を展開していきます。また、MCIの早期検査を手がけるバイオベンチャー (株) MCBIへT&D保険グループの太陽生命保険 (株) と共同で出資し、質量分析による精度の高い早期検査法の開発や、運動およびコミュニケーション促進による認知機能の改善効果を近赤外光脳機能イメージング装置 (NIRS) で測定する方法の開発などを進めています。

来年1月には「アドバンスト・ヘルスケア」の研究拠点となる「ヘルスケアR&Dセンター」が竣工予定です。「科学技術で社会に貢献する」ための研究開発をより一層加速させていきます。

アルツハイマー病変検出法

脳の中にアミロイドの異常蓄積があるかどうかを判定する検査



『認知症』について

- Q1: 『認知症』とは?**
病気などが原因で脳の働きが悪くなったり、脳細胞が死んでしまったりしたために、記憶力や判断力などの認知機能に低下が起こり、日常生活に支障が出ている状態をいいます。
- Q2: 『老化による物忘れ』と『認知症による物忘れ』の違いは?**
『老化』の場合は、「何を食べたか」「どこに片付けたか」を忘れることがありますが、一種の物忘れであり、ヒントがあれば思い出すことができます。『認知症』の場合は、「食事をしたこと」「片付けをしたこと」そのものの記憶がなくなり、ヒントを与えても思い出すことができません。
- Q3: 『アルツハイマー型認知症』とは?**
認知症にはいくつかの種類がありますが、『アルツハイマー型認知症』は全体の6割を占めます。『アルツハイマー型認知症』は脳の変性によって起きる病気です。原因として有力であると考えられているのが、脳内に「アミロイド」というたんぱく質が蓄積していくことです。これが原因となり、神経細胞が破壊され、徐々に脳が変性・萎縮していく中で認知症に進行すると考えられます。ただし、アミロイドが蓄積しているからといって、必ずしも認知症に移行するとは限りません。
- Q4: 『軽度認知障害 (MCI)』とは?**
認知症は急に発症するわけではなく、緩やかに進行していきます。認知症とは診断されないけれど、記憶力が年齢以上に低下し、物忘れがひどくなったという時期があります。このように日常生活に大きな影響がない状態で、それ以外に認知機能の障害はみられず、健常と認知症の間にいる状態を「軽度認知障害 (MCI)」といいます。しかし、MCIの人が必ず認知症を発症するとは限りません。


CSRの取り組み

当社グループは、基本理念(社是・経営理念)のもと、「社会やお客様が求めるものに科学技術で応え、より便利で安心・安全な社会の実現に貢献する」ことを1875年の創業以来140年以上にわたる歴史の中で目指してきました。

近年は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の採択や気候変動に関するパリ協定の発効、また人権・労働・環境・腐敗防止に関する普遍的原則(国連グローバルコンパクト)の浸透など、グローバルな社会課題の解決を目指した動きが加速し、企業に求められることも大きく変化しています。

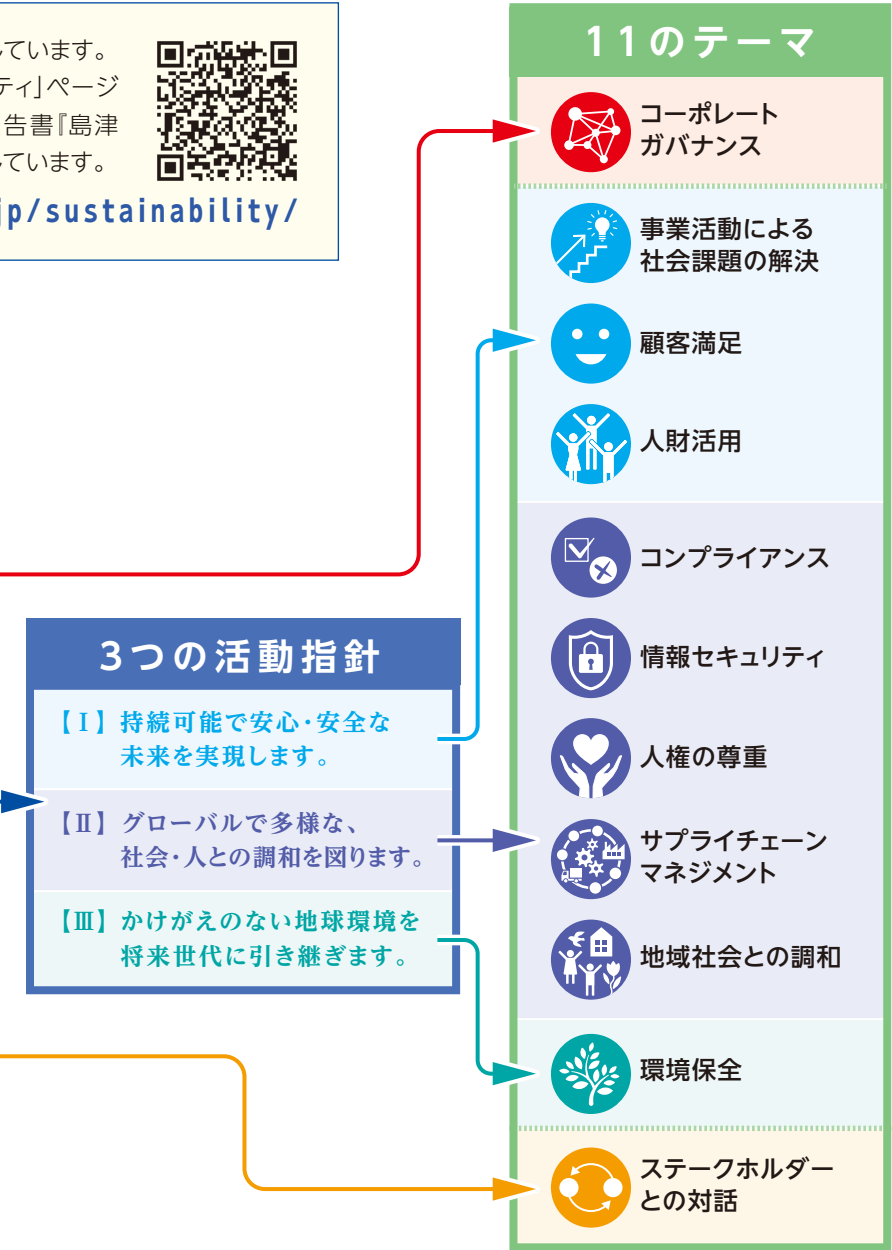
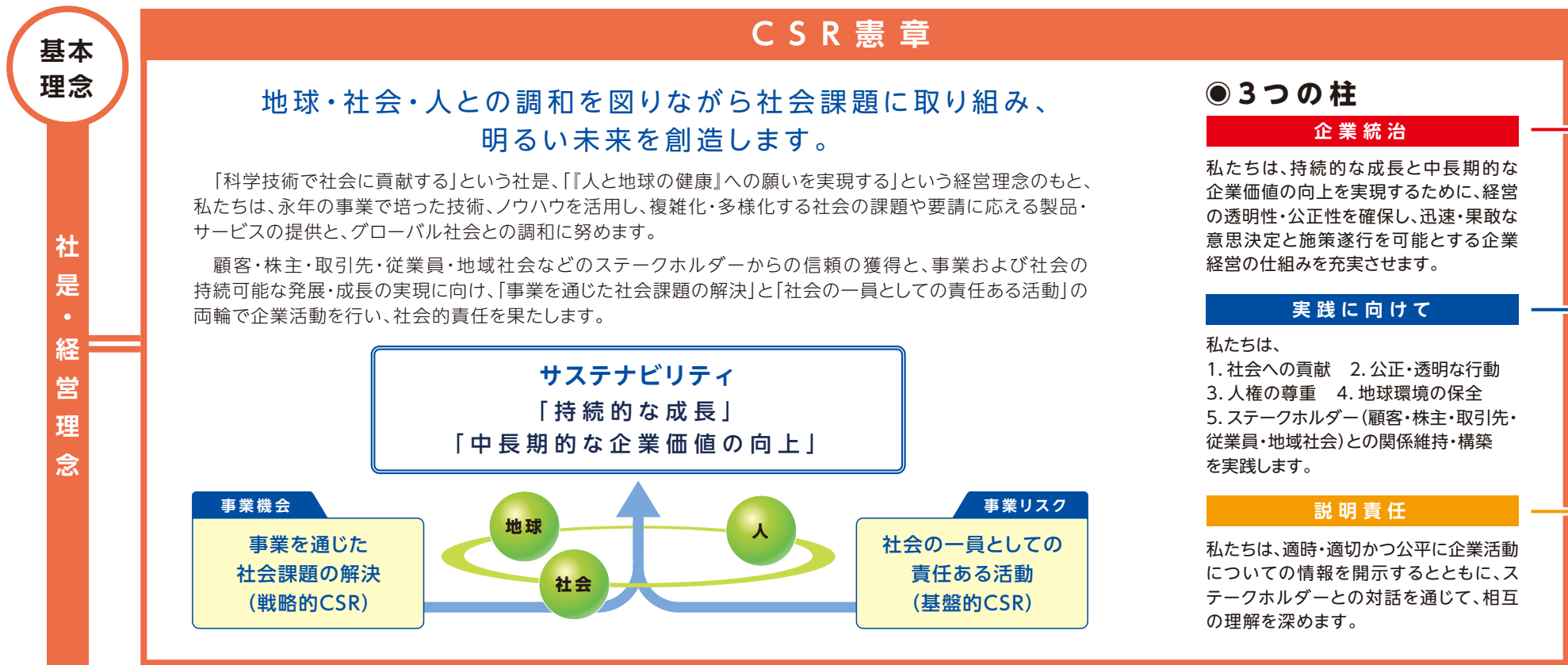
当社グループは、持続可能な世界の実現を目指して、グローバル社会との調和を図り、ステークホルダーからのより一層の厚い信頼を得て、「**社会の持続的な成長**」と「**中長期的な企業価値の向上**」を実現していくために、2017年11月に「**CSR憲章**」を制定し、その実践に向けた「**3つの活動指針**」と「**11のテーマ**」を策定しました。

11頁に具体的な取り組みの事例を掲載しています。また、当社ウェブサイトの「サステナビリティ」ページでもCSR活動の最新情報やCSR関連報告書『島津レポート』を掲載し、さらに詳細にご紹介しています。



<https://www.shimadzu.co.jp/sustainability/>

当社グループのCSR体系





[社員の健康促進策]

**乳房専用PET装置による
従業員とその家族の
乳がん検診費用を補助**

従業員一人ひとりが健康で安心して働き、その能力を十分に発揮できるように健康増進を支援しています。その一例として、当社の乳房専用PET装置を用いた乳がん検診の受診費用を補助しています。対象者は、40歳以上の女性従業員および男性従業員の40歳以上の配偶者です。国立がん研究センターによれば、国内の女性で部位別の罹患率が最も高いがんは乳がんですが、早期に発見・治療を行えば5年生存率は90%を超えます。当社は、健康経営推進プロジェクトを通じ、従業員とその家族の健康の増進・維持に繋がることを願っています。



乳房専用PET装置「Elmammo Avant Class」
検査時のイメージ



2018
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500
経済産業省が日本健康会議と共同で、優良な健康経営の施策を実施している大規模法人を認定する制度「健康経営優良法人2018（ホワイト500）」に認定されています。



[環境保全]

「島津製作所の森」づくり活動10周年

社会貢献活動の一環として、2008年より森を守り育む「京都モデルフォレスト運動」に参画しています。京都府南丹市八木町にある森を「島津製作所の森」と名付け、従業員とその家族によるボランティアが主体となって森の保全活動を行っています。年間2回実施しており、これまでに延べ1,150名が参加しました。2018年に本活動が10年を迎えるに当たり、森林整備に加え、地域の活性化に繋がる取り組みや循環型社会の構築を見据えた活動も展開したいと考えています。これからも「島津製作所の森」づくり活動を継続し、社員や地域と共に企業価値・社会価値の創出を目指していきます。



[地域社会との調和]

島津ぶんせき体験スクールの開催

子どもたちに「もっと科学に興味を持ってもらいたい」という考えから、「島津ぶんせき体験スクール」を開催しています。2007年に開始した本スクールは、子どもたち向けに、当社の分析装置（高速液体クロマトグラフや分光光度計）の操作体験や、簡単な理化学実験を実施しています。これまで、京都市の小・中学校を中心に200回以上開催し、3,600人以上が参加しました。現在は活動範囲を広げ、親子向けのプログラムも運営しています。今後は、リハビリ等で活用されている近赤外光脳機能イメージング装置（NIRS）を使用した脳の働きを観察する高校生向けのプログラムを予定しており、多くの参加者に科学技術への関心を高めていただけるよう取り組んでいきます。

参加者の声(中学生):

スクールに参加して「モノ作り」「分析」など沢山の体験ができました。特に分析装置を使って身近なお茶などの飲み物を分析する体験が楽しかったです。



■ 取締役



代表取締役
会長
中本 晃
取締役会議長



代表取締役
社長
上田 輝久
CEO



取締役
専務執行役員
藤野 寛
リスクマネジメント
担当/
航空機器事業部長



取締役
専務執行役員
三浦 泰夫
理財・営業担当/
東京支社長



取締役
専務執行役員
古澤 宏二
経営戦略・IR・
広報担当



社外取締役
澤口 実
弁護士/
東京大学大学院
法学政治学研究所
客員教授



社外取締役
藤原 健嗣
旭化成株式会社
相談役/
コクヨ株式会社
社外取締役/
株式会社IH
社外取締役/
コニカミノルタ
株式会社
社外取締役



社外取締役
和田 浩子
Office WaDa 代表

■ 監査役



常任監査役
藤井 浩之



常勤監査役
上松 幸治



社外監査役
飯田 隆
弁護士/
アルプス電気株式会社
社外取締役(監査等委員)/
日本電信電話株式会社
社外監査役



社外監査役
西尾 方宏
公認会計士/
株式会社マダム
社外監査役/
サムコ株式会社
社外監査役

定時株主総会に関するご報告

2018年6月27日開催の当社第155期定時株主総会の決議の結果につきましては、インターネット上の当社ホームページに掲載しております「第155期定時株主総会決議ご通知」をご高覧ください。

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/shareholders.html>



会社概要

■会社概要

商号 株式会社島津製作所
Shimadzu Corporation
創業 明治8年(1875年)3月
設立 大正6年(1917年)9月
本社所在地 〒604-8511
京都市中京区西ノ京桑原町1番地
電話075-823-1111(代表)
資本金 26,648,899,574円
従業員数 単独 3,279名 連結 11,954名
連結子会社数 国内23社 海外51社

■主要な事業所

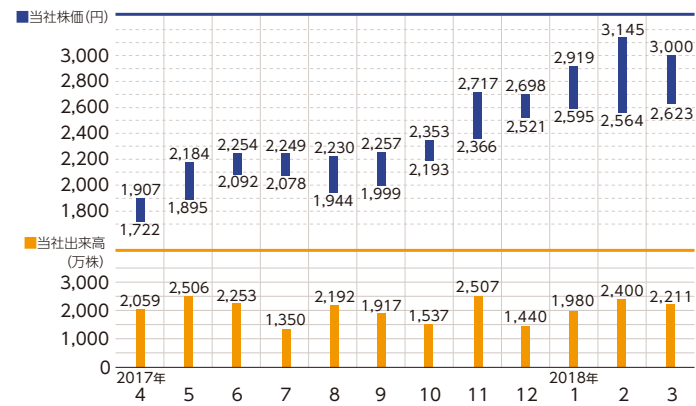
本社 京都市中京区西ノ京桑原町1番地
支社 東京/関西(大阪市)
支店 札幌/東北(仙台市)/つくば/北関東(さいたま市)/
横浜/静岡/名古屋/京都/神戸/広島/
四国(高松市)/九州(福岡市)
工場 三条/紫野(いずれも京都市)/厚木(厚木市)/
秦野(秦野市)/瀬田(大津市)
研究所 基盤技術研究所(京都府精華町/京都市)
田中耕一記念質量分析研究所(京都市)

株式情報

■株式の状況

株主数 26,432名
発行済株式総数 296,070,227株

■株価の推移 (東京証券取引所)



JPX-NIKKEI 400
2017年度選定

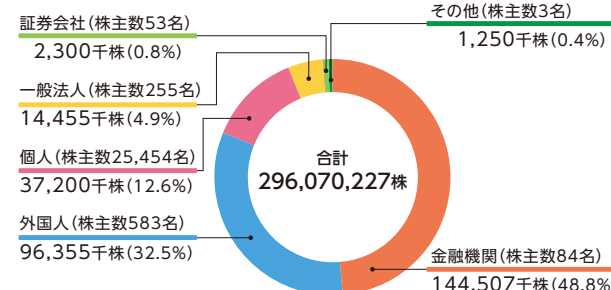
日本取引所グループ(JPX)と東京証券取引所、日本経済新聞社が、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした企業を選定する目的で、2014年から公表を開始した「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に2016年度より選定されています。

■大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
明治安田生命保険相互会社	20,742	7.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,917	6.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,965	4.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,672	2.60
太陽生命保険株式会社	7,411	2.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	6,657	2.26
東京海上日動火災保険株式会社	6,287	2.13
全国共済農業協同組合連合会	6,101	2.07
株式会社京都銀行	4,922	1.67
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	4,572	1.55

※1 持株比率は、自己株式(1,247,741株)を控除して計算しております。
※2 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

■所有者別株式分布状況



証券会社に口座をお持ちでない株主様へ

現在、証券会社に口座をお持ちでない株主様の株式は、当社が三菱UFJ信託銀行株式会社に開設した「特別口座」において管理しております。**「特別口座」では、証券市場において株式を売買できないなどの制約があります**ので、次のお手続きをお勧めいたします。ご所有の株式が「特別口座」で管理されているかご不明の株主様は、下記の**三菱UFJ信託銀行**へお問い合わせください。

お心当りはございませんか?

- お手元に株券がある(証券会社に株式を預けていない)
- 配当金のご連絡通知に記載されている株式数と、証券会社に預けている株式数が一致しない

お心当りがありましたら、

株式が「特別口座」で管理されている可能性がございます

①「特別口座」にある株式の証券口座への振替方法

証券会社に口座を開設する。 ▶ 三菱UFJ信託銀行に「口座振替申請書」を請求する。 ▶ 申請書に必要事項を記入・届出印を押印して三菱UFJ信託銀行に送付する。 ▶ これで手続きは完了です。

既に証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設いただく必要はありません。

下記の**三菱UFJ信託銀行**のホームページ「特別口座」に関するお手続き(上場会社)からも口座振替申請書(特別口座)をダウンロードいただけます。

[送付先]
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部

証券会社の口座に株式が振替わります。

② 単元未満株式の買取請求

「特別口座」にご所有の単元未満株式(100株未満)を、市場価格にて当社に売却(買取請求)するお手続きです。ご希望の株主様は、下記の**三菱UFJ信託銀行**にお問い合わせください。

例) 50株をご所有の株主様の場合



株式に関するお問い合わせ先

■ 住所・氏名変更、配当金振込指定、単元未満株式買取請求、相続に伴うお手続き等
→ **株式をお預けの証券会社**、または証券会社にお預けでない場合は、**三菱UFJ信託銀行**

■ 「特別口座」(上記ご参照)に関するご照会、郵便物の発送と返戻に関するご照会、支払い期間経過後の配当金に関するご照会
→ **三菱UFJ信託銀行** 証券代行部テレホンセンター(通話料無料) 受付時間 9時~17時(土・日・祝日等を除く)

電話 **0120-232-711** (東京) / **0120-094-777** (大阪)
ホームページ <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 (その他必要ある場合は、公告のうえ設定します。)
公告方法	電子公告とし、当社ホームページに掲載します。 https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない理由が生じたときは、京都新聞および日本経済新聞に掲載します。
1単元の株数	100株
株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話(通話料無料)0120-094-777 受付時間 9時～17時(土・日・祝日等を除く)
証券コード	7701
上場証券取引所	東証第一部

ホームページのご案内

<https://www.shimadzu.co.jp/>



『投資家向け情報』から最新情報をご覧ください。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。環境への配慮のため、責任ある森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用し、植物油を用いた印刷をしています。

キリトリ

島津製作所 創業記念 資料館

株主様 無料入館券

本券1枚につき
4名様まで
無料で入館
いただけます。

2019年3月末
まで有効

島津製作所 創業記念資料館のご案内

当館は、創業100年を迎えたことを記念し、創業者である初代と二代目島津源蔵の遺徳を偲び1975年に開設されました。館内には、創業以来製造してきた理化学器械、産業機器やX線装置ならびに事業活動に関連する文献・資料などを展示しており、島津製作所の歩みとともに、日本の近代科学技術の発展過程をご覧ください。



島津製作所 創業記念資料館 (登録有形文化財)

- 市バス「京都市役所前」下車徒歩約3分
- 京阪電車「三条駅」下車徒歩約7分
- 地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車2番出口徒歩約3分
(地下鉄烏丸線「京都駅」より「烏丸御池駅」乗換、地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車)
- JR「京都駅」よりタクシーで約20分

※当館には、駐車場がございません。あらかじめご了承ください。



〒604-0921

京都市中京区木屋町二条南

●TEL/075-255-0980

●FAX/075-255-0985

●<https://www.shimadzu.co.jp/visionary/memorial-hall/>



DP050-0155B / 0220-05804-28BN5